

図書館だより

目次

和歌をうたう	——坂本 清恵	1
著作紹介 小林富雄著『食品ロスの経済学』【第4版】	——小林 富雄	2
著作紹介 坂田薫子著『 モンスター 取扱説明書 怪物のトリセツ——ドラキュラのロンドン、ハリー・ポッターのイギリス』	——坂田 薫子	3
ケルムスコット・プレス版『黄金伝説』	——川端 康雄	4
2022年度上代タノ平和文庫購入資料紹介	——井村眞那子	6
図書館の魅力	——村井あかり	7
偶然の「出会い」と学び	——中澤 恵子	8
資料の森の歩き方		



日本女子大学図書館所蔵『源氏物語』五十四帖揃

和歌をうたう

坂本 清恵

2024年のNHK大河ドラマ「光る君へ」のヒロインは、『源氏物語』の作者紫式部です。ドラマの作者は、本学日本文学科の卒業生大石静さん。和歌考証は、『源氏物語の和歌』（笠間書院）の著者であり、本学名誉教授にして、120周年を迎える桜楓会理事長でもある高野晴代先生が担当しておいでになります。お二人は、日本文学科の同級生でありますから、本学を挙げて、このドラマの進展を見守っていると言って、過言ではありません。一条朝の多才な女房たちの活躍が描かれ、それが平安文学、日本古典文学への関心を喚起することを、日本文学科の教員としては、願わずにはいられません。

さてドラマの初め、紫式部が若かりし頃に、和歌の代作によって収入を得ていたという設定は、和歌が当時どのような存在であったかを理解するうえでも、重要でした。和歌は単に己れ一個の心情を詠むだけでなく、女性が男性の立場で、男性が女性の立場で詠む場合もあり、代作も盛んだったことを伝えています。歌には心が表現されますが、それはロールプレイも可能だったのです。

31字でつづられる和歌は平仮名で書かれ、男女の仲を取り持つコミュニケーションツールでもありました。平仮名は、室町時代まで「女手（おんなで）」と呼ばれましたが、女が使う文字というよりも、女性とのコミュニケーションを取り持つ、男女共有の文字であったといえます。かつてTwitter（現 X）には140字の制限がありましたが、その3分1にも満たない31字で、さまざまな思いが表現できる和歌は、日本文化を支えたエッセンスだったともいえるでしょう。

一方で和歌は、耳で聴くものでもあります。『十訓抄』などには、和歌を口頭で言い掛ける場面が出てきますし、歌を即座に詠み返す才覚が称揚されています。歌の発表会では、新年宮中歌会始のように、旋律を付けて披露することが行われてきました。5音と7音の組み合わせで、記憶に留めやすいこの定型のパッケージは、子どもにもすぐに馴染めるものなのでした。

高等学校の学習指導要領が改訂され、国語では折句や本歌取りを作ってみる授業が展開されるようになっています。和歌は目で読んで味わうだけのものではなく、詠唱して楽しむものでもあるという認識が、ドラマ「光る君へ」とともに広まっていくことを願っています。

図書館では、「図書館だより」174号で紹介した『源氏物語』をはじめ、このドラマに関連した書籍の展示を行います。

（図書館長・日本文学科教授）

著作紹介

小林富雄著『食品ロスの経済学』【第4版】

小林 富雄



第4版となる本書は、初版から8年で4回の改訂を経て現在に至ります。教科書として採用されているわけでもない学術書を多くの方に読んでいただけたことは、著者としては望外の喜びです。ページ数も初版の198頁から現在の350頁にまで増加しました。これは、対象領域が急拡大したことに起因します。実は、最初の論文は大学院生の時に執筆した20年以上も前に発表したもの、最新のものは2年前に海外の共同研究者と書いたものまで含まれています。体系的な論述についての課題がのこりましたが、食品ロス問題の奥深さを示す証左となったかもしれません。

初版出版後、食品ロス問題は2015年のSDGs採択もあり世界的に多くの賛同者があらわれ、国内でも2019年の食品ロス削減推進法の制定などを通じて多くの方に認知されるようになりました。さらにスマホの普及を機に「食品ロス」がビジュアル化されたことも重要です。その過程では、当初環境問題として取り上げられたものが、次第に貧困や食料安全保障などに関連づけられ幅広く言及されていきました。その結果多くの人に課題を共有しされ、食品ロスが社会問題化したのだと思います。

本書も、食料問題の1つとして食品ロスを位置づけ、環境や企業経営まで幅広く言及するなかで研究対象が次第に広がっていきました。いずれの分析も、食料生産の偏在に市場流通が対応しきれず飢餓と飽食が併存する、つまり食料需給ギャップが発生していることに焦点を当て、食料の過剰供給の実態解明とその解消方法について論じています。それにより、貧困問題や食料安全保障、そしてフードサプライチェーンを構成する企業経営の問題まで、包括的に取り上げることができました。

一方で、企業行動を対象とした調査や分析には、大きな困難がありました。食品ロス問題は、Tristram (2009) の『Waste! Uncovering the Global Food Scandal-』にあるように、企業にとってはスキャンダルです。そのため、データ分析以前に、データを取得すること自体が難航しました。私がもし環境問題としてのみ本テーマを取り上げていたら、スキャンダルを告発する研究者とみなされ企業へのアクセスは難航したでしょう。業界の皆さんと信頼関係で結ばれたことは、まさに幸甚の至りです。

本書の主張は、ビジネス上の「リスク回避」のために食品ロスが発生しているということ、それを軽減させるためにはより効率的で緻密なリスクコミュニケーションが必要であることの2点です。リスク回避のためのコストは、そのリスクを放置した場合に発生する損失に比べ格段に安いので、食品ロスを発生させることは経済的に極めて妥当な判断となります。具体的には、「鮮度・食中毒リスク（低品質のものを提供してしまう）」「在庫リスク（欠品してしまう）」「価格リスク（安売りしすぎてしまう）」の回避を目的に供給量が上ブレするので、単にロスを減らせといっても難しいことがほとんどです。また、食品ロスを減らしすぎると、私たちの生活を窮屈にしたり、つまらない食文化になってしまったりすることも問題を複雑にしています。韓国や中国では食べ残すくらいにお客様をおもてなしすることが良いとされることもありますね。

このように食品ロス削減は「Optimal（最適な調整）」な状態を目標に推進すべきなのですが、Optimalに発生する食品ロスをさらにレスキューする手段も増えていきます。かつて日本は残飯養豚などのリサイクルが盛んでした。近年でもリユースにあたる再流通（Redistribution）の取り組みが増加しています。フードシェアや寄付、食べ残しの持ち帰り（ドギーバッグ）なども注目されつつあり、現実にリサイクルショップやマッチングアプリで食品の取り扱い高が増えています。本書はこのような食品ロス問題の書であると同時に、社会課題のとらえ方や解決方法を考える目的でも参考になるかもしれません。産業構造の転換が進まない日本で、本書がその一助となれば幸いです。

（家政経済学科教授）

著作紹介

坂田薫子著『怪物のトリセツ——ドラキュラのロンドン、ハリー・ポッターのイギリス』

坂田 薫子

なぜ赤ずきんちゃんは狼の待つベッドに入るとき、服を脱がなければならないのだろう。なぜフランケンシュタイン博士の造った怪物は醜い姿になってしまったのだろう。なぜドラキュラは女性しか襲わないのだろう。子どものころ、絵本やおとぎ話を讀んだり、アニメを觀たりしたとき、いつも不思議に思っていた。多くの文学研究者もそうであったのだろうか、メアリ・シェリーの創作した怪物の正体や、ブラム・ストーカーの描いた吸血鬼の正体を探ろうとする論文が世界の著名な文学研究者たちによって数多く著わされている。

例えば「ドラキュラ伯爵とは何者なのか」、この問いに答えるために研究者たちはこれまで様々な文学理論を用いて『ドラキュラ』（1897年）を讀み解いてきた。ドラキュラ伯爵と吸血鬼ハンターたちの間で繰り広げられる戦いに経済独占主義と経済民主主義の対立を讀み取る者もいれば、貴族社会と中産階級の階級闘争を讀み取る者もいる。ドラキュラ伯爵を無意識下の欲望の象徴と、ヴァン・ヘルシングをそうした欲望を抑制する自我の象徴と見なしたりする者や、エディプス期に見られる父親への恐怖や前エディプス期に見られる母親への恐怖を作品に讀み取る者もいる。ドラキュラ伯爵を疫病の隠喩と解釈する者もいれば、吸血鬼ハンターによるドラキュラ伯爵抹殺に反ユダヤ主義の言説を讀み取る者もいる。しかし、変幻自在で、どんなに狭い隙間からでも逃げ去ることができる吸血鬼ドラキュラは一つの定義に収まってはくれない。ドラキュラ伯爵が社会のタブーを體現し、超えてはならぬ境界線を曖昧にしようとする脅威であることはどの研究者も口をそろえて認めているものの、どの社会のどんなタブーなのか、何の境界線なのかに関して意見は分かれたままとなっている。

ここで重要なのは、18世紀後半から19世紀初頭にかけて流行したゴシック小説を特徴づけていた中世趣味や異国情調とは異なり、『ドラキュラ』の舞台の中心が未知の異国でも遠い過去でもなく、作品出版当時のリアル・タイムのイギリスとなっている点である。この舞台設定は、吸血鬼ハンターたち、さらには当時の読者たちが直面しなければならなかったものとは、彼らと直接かかわりのない、イギリスの外にある過去の脅威ではなく、彼らが自分たちの手で解決しなければならなかった、イギリス国内にある19世紀末の脅威であったことを示唆している。『ドラキュラ』は時代を超えた娯楽としてのゴシック・ホラーというよりも、この作品が出版された1890年代のイギリスの社会的、文化的諸問題を反映した小説、つまり、1890年代のイギリスという時代と場所でなければ生まれ得なかった小説として理解されるべきなのだ。

そこで、本書では、『ドラキュラ』を始めてとして、世界で広く親しまれているイギリスのゴシック小説やファンタジー小説に登場する怪物や魔物たちが、それぞれの作品が執筆された時代のどういった社会的、文化的諸問題を写し出しているのかを解き明かしてみた。第一部では19世紀末の代表的なイギリス小説にこぞって登場した怪物たちが象徴するものを探り、第三部ではリアル・タイムの現代にその存在を設定された魔法界を描いた『ハリー・ポッター』シリーズ（1997～2007年）に垣間見られる社会的、文化的諸問題を探り、その中間にあたる第二部では、アンジェラ・カーターの短編集『血染めの部屋』（1979年）に収められた「狼たちの仲間」を用いて、おとぎ話の書き換えがどのようにして各時代の社会的、文化的諸問題を写し出しているのかを探ってみた。本書を手にとっていただき、例えば、『進撃の巨人』の巨人や、『鬼滅の刃』の鬼たちが何を象徴しているかを思いめぐらしてみるきっかけになれば幸いである。

（英文学科教授）



ケルムスコット・プレス版『黄金伝説』

川端 康雄

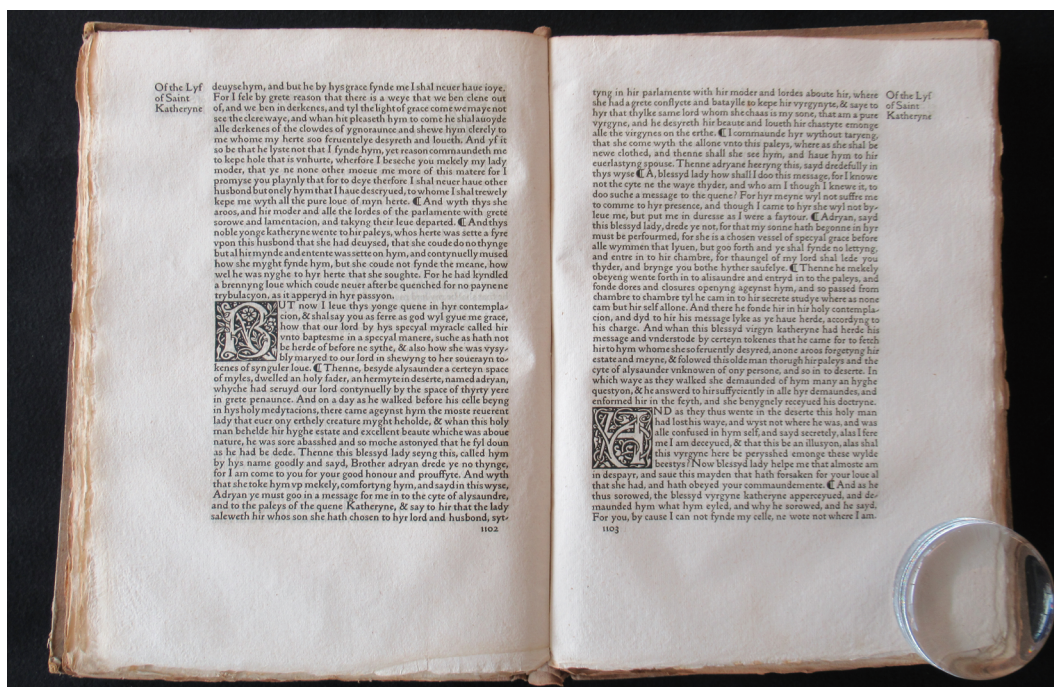
『黄金伝説』はキリスト教聖人伝説の集大成で、編者は13世紀のジェノヴァの大司教ヤコブス・デ・ウォラギネ。原書はラテン語で書かれており (*Legenda aurea*, ca.1267), それが西欧世界で各国語に翻訳され広く読まれた。英国最初の印刷業者ウィリアム・キャクストン (ca.1422-1492) が英訳して1483年頃に *The Golden Legend* として刊行。ケルムスコット・プレス (以下、KP と略記する) を1891年初頭に発足するにあたり、ウィリアム・モリスはこのキャクストン版を最初の刊本にする意向だったが、諸般の事情で遅れ、完成は1892年秋、KP の7番目の書目となった。

1890年夏、モリスは「タイポグラフィの冒険」に乗り出すための基本中の基本とみなす作業に取り組んでいた。すなわち活字デザインである。15世紀ヴェネツィアの印刷者ニコラ・ジャンソンの書体を主なモデルとしてローマン体の書体をデザインした。並行してロンドンの古書籍商バーナード・クオリッチが販売元になってモリスの印刷本を出す企画が動き出していた。モリスの友人で書籍商・出版者の F. S. エリス (1830-1901) が編者として協力する約束をしてくれていた。モリスとエリスはクオリッチとの数度のやり取りをへて1890年9月11日に以下の契約を交わした。

1. エリス、モリス両氏はキャクストン版『黄金伝説』原本の改訂を無償で行うことに同意する。
2. 二人の編者はこの翻刻版完成の際に各自12部を受け取る。大型判の印刷を決定した場合は各自3部を受け取る。〔欄外に「無料で」の追記あり。〕
3. モリス氏は用紙の選択、活字と判型の選択、印刷業者の選定について単独かつ絶対的な権限を有する。
4. クオリッチ氏は、彼の名において、またその後継者、遺言執行者、相続人の名において、用紙、印刷、製本に掛かる費用を負担することを同意あるいは定める。

わずか12部と引き換えに『黄金伝説』翻刻の作業一切を請け負うというのは割が合わない契約に見えるが、なんといっても製作費全額をクオリッチが負い、モリスが自分の理想の本作りを目指せるというのが魅力だったのだろう。第3条の「印刷業者の選定」の文言を見ると、契約書を交わした時点では他の印刷所を使う可能性があったことが伺える。じっさい、KP の初代秘書ハリデイ・スパーリングの証言によれば、当初モリスはKP では自身の活字を用いて植字 (組版) をするまでにして、実際の印刷作業 (つまり印刷機を使つての刷り) はエマリー・ウォーカーの工房にまかせつつもりだったという。だが印刷実務の知識が深まるにつれて、それではリスクがある (ウォーカーの工房があるクリフォード・インはロンドン中心部にあってハマスミスのモリス宅からは遠く、印刷の監督に支障がある) というので、その方式は取らず、本格的な印刷工房設立に舵を切る。

ローマン体の活字作りは年末にほぼ完成、大文字小文字、句読点、数字、連結文字を含む81点の父型は彫版師エドワード・プリンスによって「イングリッシュ」大 (14ポイント) で彫られ、鋳造された。『黄金伝説』にちなみモリスはこれを「ゴールデン・タイプ」と名づけた。1891年1月12日に自宅から東に数件離れたハマスミス、アッパー・マル16番地のコテージを賃借し、すでに購入した手引き印刷機 (アルビオン) を設置。また前年にリーヴズ・アンド・ターナー社刊『ユートピアだより』の印刷を手掛けて引退したばかりの印刷工ウィリアム・ボーデンを KP に雇い入れる。始めてみるとひとりでは到底足りず、ボーデンの娘のバイン夫人が手伝いに入り、さらに翌月息子のウィリアム・ヘンリー・ボーデンが加入、その後も次第に職人を増やして対応してゆく。印刷機も最終的に4台に増える。ケント州のパチェラー社に注文した最初の印刷用紙 (化学漂白剤を用いない手漉紙) 10連 (5千枚) も2月に届いた。ただし、この紙 (桜草の透かし模様入りで「フラワー」(1) 紙と呼ばれる) のサイズが『黄金伝説』用には小さすぎるといふことで、モリス作の『輝く平原の物語』(KP 1) や『折りふしの詩』(KP 2) などの印刷が先に進められることになった。倍のサイズの「フラワー」(2) 紙が届き、『黄金伝説』の最初のシートが刷られたのは1891年5月11日



ヤコブス・デ・ウォラギネ著『黄金伝説』（ケルムスコット・プレス、1892年）より「聖カタリナの生涯」1102-3頁。活字（ゴールデン・タイプ）、装飾頭文字のデザインはウィリアム・モリスの手になる（所蔵：日本女子大学図書館）

のことだった。『黄金伝説』の書誌データは以下のとおりである。

KP 書目第7番『黄金伝説』（*The Golden Legend*）ヤコブス・デ・ウォラギネ著、ウィリアム・キャクストン訳、F. S. エリス編。全3巻。大型4折判（287×205mm）、全1310頁。ゴールデン・タイプ。木口木版題扉付。木口木版挿絵2点エドワード・バーン=ジョーンズ画。クォーター・ホランド装。紙刷本500部（5ギニー）。コロフォン日付1892年9月12日。バーナード・クオリッチ社より1892年11月3日発売。

この本でモリスは木版題扉を初めて使用したのだが、またバーン=ジョーンズによる1頁大の魅力的な挿絵が2点附されているのだが、今回図版でお示しするのは通常の本文見開き二頁である。KPを図版で紹介する場合、見た目に一番鮮やかなものだから、どうしても題扉や挿絵頁に偏りがちだが（本連載もその例に漏れない）、縁飾りも特に附さず、数点の装飾頭文字を入れるぐらいでオーナメントは最小限にとどめ、良質の活字をバランスよく配置した見開き二頁が読みやすい印刷本の基本であるとする、1893年のエッセイ「印刷」での提言がここで実践されていることに注目されたい。印刷面と余白の黒白のコントラストをしっかりと出すために改行をせずに「段標」（paragraph symbol）を用いることで印刷面の「川」（見苦しい白い隙間）を避ける工夫もここで確認できる。

モリスはウィンキン・ド・ウォード版（1527年）を1890年7月に購入していたものの、底本とするキャクストン版は所蔵していなかったため、エリスがケンブリッジ大学図書館に渡りをつけて同館の所蔵本を借り出し、娘フィリスに全文を筆写してもらい、それを印刷原稿にした。随時モリスと相談しつつも単独で校訂の責任を負った父親（慎ましくも巻末の「覚書」でモリスとの「共編」だと断っている）もそうだが、フィリスの貢献ももっと称揚されてよい（これについては徳永聡子慶應義塾大学教授の優れた論考を参照されたい。Satoko Tokunaga, [“The Kelmscott Golden Legend and F. S. Ellis”](#)『藝文研究』Vol. 113, no. 2, Dec. 2017）。なお、日本女子大学図書館はオリジナル装丁（クォーター・ホランド装）とヴェラム装丁の2セットを所蔵している。（文学部名誉教授）

2022年度上代タノ平和文庫購入資料紹介

「上代タノ平和文庫」は、1964年に旧図書館の開設を主導した当時の第六代学長、上代タノ先生（1886-1982）が図書館に寄贈された資料を基に、1971年に創設された。現在の図書館では最上階の4階にあり、一般図書と同様、貸し出しができる。本学図書館においては数少ない、個人の名前を冠した文庫で、寄贈者のご遺志を継いで現在も「発展する文庫」として継続収集が続けられている。個人の旧蔵書を基にした文庫としては珍しい存在と言える。

2022年は、いやおうなしに戦争と平和について考えざるを得なくなる1年であった。昨年度中に「上代タノ平和文庫」の蔵書として購入された図書の一覧は下記のとおりである。これらの資料が、文庫創設の主な目的として挙げられた、「世界人類の幸福に対する日本の役割を十分に果すことのできる基礎を与える」一助となれば幸いである。

	請求記号	資料情報
1	219.9 Hon	沖縄戦場の記憶と「慰安所」/ 洪玢伸著. -- 新装改訂版. -- インパクト出版会, 2022.
2	219.9 Ok	沖縄「平和の礎（いしじ）」はいかにして創られたか / 高山朝光, 比嘉博, 石原昌家編著. -- 高文研, 2022.
3	289.1 Oka	「個」のひろしま: 被爆者岡田恵美子の生涯 / 宮崎園子著. -- 西日本出版社, 2022.
4	289.3 Nan	フリチョフ・ナンセン: 極北探検家から「難民の父」へ / 新垣修著. -- 太郎次郎社エディタス, 2022.
5	289.3 Par	ローザ・パークス自伝: 「人権運動の母」が歩んだ勇気と自由への道 / ローザ・パークス著; 高橋朋子訳. -- 潮出版社, 2021. -- (潮文庫; 口・1).
6	311.235 Kaw	平和の追求: 18世紀フランスのコスモポリタニズム / 川出良枝著. -- 東京大学出版会, 2023.
7	319.04 Mag	平和を創る道の探求: ウクライナ危機の「糾弾」「制裁」を超えて / 孫崎享著. -- かもがわ出版, 2022. -- (深読み Now; 5).
8	319.380386 Soe	ウクライナ戦争は問いかける: NATO 東方拡大・核・広島 / 副島英樹著. -- 朝日新聞出版, 2023.
9	319.386038 Shi	ウクライナ危機から問う日本と世界の平和: 戦場ジャーナリストの提言 / 志葉玲著. -- あけび書房, 2022.
10	319.53 Dul	戦争か平和か: 国務長官回想録 / ジョン・ダレス著; 大場正史訳. -- 中央公論新社, 2022. -- (中公文庫; [タ・11-1]).
11	319.8 Aji	アジアの平和とガバナンス / 広島市立大学広島平和研究所編. -- 有信堂高文社, 2022.
12	319.8 Hei	ヒロシマの折り / 早稲田大学出版部編. -- 早稲田大学出版部, 2022. -- (早稲田新書; 010. 「平和宣言」全文を読む).
13	319.8 Hei	ナガサキの願い / 早稲田大学出版部編. -- 早稲田大学出版部, 2022. -- (早稲田新書; 012. 「平和宣言」全文を読む).
14	319.8 Hor	地球時代と平和への思想 / 堀尾輝久著. -- 本の泉社, 2023.
15	319.8 Pis	ピース・アルマナック: 核兵器と戦争のない地球へ / ピース・アルマナック刊行委員会編著; 2022. -- 緑風出版, 2022.
16	319.8 San	核兵器禁止条約は日本を守るか: 「新しい現実」への正念場 / 佐野利男著. -- 信山社, 2022.
17	319.8 Sat	法的視点からの平和学 / 佐藤潤一著. -- 晃洋書房, 2022.
18	319.8 Ues	どうすれば争いを止められるのか: 17歳からの紛争解決学 / 上杉勇司著. -- WAVE 出版, 2023.
19	323.142 Kob	平和的生存権の展開 / 小林武著. -- 日本評論社, 2021.
20	323.142 Owa	武力によらない平和を生きる: 非暴力抵抗と平和的生存権 / 大脇雅子著. -- 旬報社, 2023.
21	329.39 Kin	緊急人道支援の世紀: 紛争・災害・危機への新たな対応 / 内海成治, 桑名恵, 大西健丞編. -- ナカニシヤ出版, 2022.
22	329.5 Hei	平和構築と個人の権利: 救済の国際法試論 = Peacebuilding and human rights: saving individuals under international law / 片柳真理 [ほか] 著. -- 広島大学出版会, 2022.
23	375.3 Kak	学校で戦争を教えるということ: 社会科教育は何をなすべきか = How should war be taught in school? / 角田将士著. -- 学事出版, 2023.
24	392.1076 Has	核戦争, どうする日本?: 「ポスト国連の時代」が始まった / 橋爪大三郎著. -- 筑摩書房, 2023.
25	393.25 Nis	灯火とともに闇のなかを: 二つの世界大戦にみる英米の良心的兵役拒否者 / 西村裕美著. -- 花伝社, 2022.
26	914.6 Nak	戦争と平和ある観察 / 中井久夫著. -- 増補新装版. -- 人文書院, 2022.
27	O.S. 210.75 Ino	いのちと平和のバトンを: 東京大空襲・戦災資料センター図録 / 東京大空襲・戦災資料センター編. -- 合同出版, 2022.

配列は請求記号順

「図書館の魅力」

井村 眞那子

私は以前、図書館は本を読むことが好きな人が利用する場所だと思っており、大学入学前まであまり利用したことがありませんでした。大学生になって図書館を利用して多くの魅力を知り、今では私にとって必要不可欠な場所です。私が利用して知った図書館の魅力を3つ紹介します。

1つ目は、図書館にある多様なジャンルの書籍です。古いものから新しいものまで幅広い年代の書籍、学科ごとの専門分野に関する書籍、女性に焦点を当てた書籍、洋書、他にも雑誌、新聞などがありとても充実しています。私自身は専門分野の書籍を利用することで、授業への理解が深まりました。また、実験レポートを書くときは、実験に必要な知識の他にその周辺の知識を本で調べることで、独自の考察を書くことにも役立ちました。

2つ目は、多くの学習スペースがあることです。館内全体はとても落ち着いた色使いで、雑音もないので集中しやすい環境になっています。私は図書館で勉強に取り組むと、時間を忘れるくらい集中でき、とても勉強が捗ります。

3つ目は、2階の「JWUラーニング・コモンズさくら」についてです。この場所では声を出しての学修活動ができます。友人と知識を共有して共に成長できる場となっており、友人と共に課題に取り組む学生を多く見かけます。

このような図書館の魅力を理解し、最大限に活用して効率よく学習を進めましょう。他にも、暇だと思ったときに本棚を見て歩くだけでも、普段自分が触れることのないテーマの本がたくさん目に入り、読んでみたいという気持ちが湧くと思います。4年間で興味深い本に出会い、新しい発見をしたり、視野を広げられるとより良い学生生活になると思います。

(化学生命科学科・2年次学生)

先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★

「偶然の「出会い」と学び」

村井 あかり

図書館にはJWUラーニング・コモンズさくらと呼ばれるスペースがある。可動式机・イス、貸出機器類を備えており、それらを自由に使って様々な学修活動を行うことが可能である。また、ラーニング・サポーターに、授業やレポートなどに関する学修相談をすることもできる。

ラーニング・サポーターとなってから約6年が経ち、有難いことにこれまでたくさんの学修相談の対応をさせてもらった。「進路に関して、今何をすべきか分からなくて困っている」、「卒論のテーマが定まらなくて悩んでいる」、「レポートを書くためにまず何をすればいいか」等々…果たして役に立てたのかは分からないが、相談を受ける度に私も一緒に悩んであれこれ考えたので、どの相談も印象深く心に残っている。サポーターの役目は、質問に対して正解を提示するというより、相談者が自分で答えにたどり着くための手伝いをするることである。難しいと感じることがあったのも事実で、専門分野ではない卒業論文について一緒に試行錯誤する、なんてことも少なくはなかった。振り返ってみると私はサポーターとして、相談に来てくれた学生の「手伝い」をしながらいつも全力で学んでいたのだと気づく。一見自分とは関係のないことのように思えても、様々な人と出会っていろいろな経験をして考えたことはすべて「学び」となっている。

図書館の学修相談席に座っていなければ相談にきてくれた学生たちに出会うこともなく、専門ではない研究分野について考えることもなかったと思うと、不思議な感じである。たった一点で偶然「出会った」学生たちと、短時間でも一緒に悩み考えた時間は私にとってかけがえのないものとなっていて、勉強させていただいた方たちには感謝の気持ちでいっぱいである。

新入生の皆さんにも、これからたくさんの「出会い」がありますように。

(人間生活学研究科人間発達学専攻博士課程・後期3年次学生)

資料の森の歩き方

本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は当館を利用できます。ご来館の際は、当館ホームページの開館カレンダーで開閉館日程と開館時間を確認してください。

日本女子大学図書館ホームページ URL

< Web サイト > <https://lib.jwu.ac.jp/>

< モバイルサイト (スマートフォン対応) >

App Store, Google Play ストアから「Ufinity」と検索してアプリを入手できます。

「Ufinity」の中から「日本女子大学図書館」を選択設定してください。

日本女子大学図書館 X URL

https://twitter.com/JWU_Library



当館正面玄関の上には「VERITAS VIA VITAE」というラテン語の標語が掲げられています。この標語は、旧図書館の外壁にも掲げられていたもので、この図書館にも引き継がれました。

入口エントランススロープを上った2階カウンターで学生証・教職員証をご提示ください。卒業生は身分証不要です。バーコードがある学生証はそれを図書館システムに登録し、それ以外の方には利用カードを交付します。入館や貸出に必要な学生証及び利用カードは本人のみ有効です。

当館は開架式です。奥深い資料の森に入る前にOPAC (Online Public Access Catalog: オンライン目録) で本学の蔵書を検索し、配置場所と請求記号を調べましょう。資料は、和書、洋書、雑誌、参考図書、大型本など、その



性質や形態によってまとめて配置されていますが、同じ請求記号でも配置場所 (例: 図書館目録/図目集密/図目通信/図目上代) により目指す階が異なります。また、西生田保存書庫資料は図書館へ取り寄せて利用できますが、研究室資料は図書館ではなく各研究室利用規則に

従ってのご案内となります。

従ってのご案内となります。

当館ホームページから My JWULIS (Japan Women's University Library Information System) も活用しましょう。利用状況の確認、貸出更新、OPAC の検索結果から予約 (貸出中図書予約、保存書庫保管図書取り寄せ)、検索結果・検索式の保存を行うことができます。

資料の検索方法がわからない、必要な資料が見つからないという時は、2階カウンターの隣にある参考係に相談してください。皆さんの必要とする文献や情報を探し出すサポートをします。

JWU ラーニング・コモンズさくらでは、図書館の資料や DB を使って様々な学修活動を行ったり、ラーニング・サポーター (専攻推薦を受けた本学大学院生) に学修相談することもできます。

館内には、学術情報検索専用 OPAC 端末と、学術情報検索に加えて Word, Excel, PowerPoint 等 Microsoft Office のソフトが利用できる JASMINE 端末があります。JASMINE 端末には貸出ノートパソコン (館内限定) もあります。全フロア wifi 利用可です。

最後に、当館は学習院大学図書館、お茶の水女子大学附属図書館、跡見学園女子大学図書館と図書館相互利用協定を締結しています。詳細は当館及び各大学図書館ホームページをご覧ください。

(館員・中澤恵子)

編集後記 人々が気兼ねなく外出できる日常となり、図書館の利用者数もコロナ禍以前に戻つつあります。卒業生の利用も増えてきました。この春卒業される学生の皆さんも卒業生として利用が可能です。母校の図書館は皆さんをこれからもお待ちしております。図書館事務室からも長年勤務したベテラン職員が去ります。3月は別れと旅立ちの季節。母校を去り行く方々の今後のご多幸とご活躍をお祈りしています。

2023年度編集委員: 飯山智子、水嶋寿恵、南木香織 (飯山)